



塗り絵の制作を進める矢島高生＝今月2日、矢島高



完成した塗り絵と絵本を手にする矢島高生

由利本荘市矢島町の矢島高校（佐々木誠校長）の3年生8人が、新型コロナウイルスの流行下、子どもたちが自宅で楽しく遊べるようにオリジナルの塗り絵と絵本を制作した。きょう25日に地元の保育園と小学校に寄贈する。

## 塗り絵と絵本を制作

# 矢島高生 子育て世帯応援 コロナ下、自宅で楽しく

完成したオリジナルの塗り絵（右）と絵本



制作に携わった佐藤優衣

塗り絵は250冊、絵本は50冊制作。25日には塗り絵を矢島小学校の低学年児童に47冊、矢島保育園の全園児に112冊贈る。絵本はそれぞれ2冊ずつ寄贈する。残った分は島海地域の保育園に贈る予定。

矢島高の地域創造コースビジネス系の3年生が取り組む「やしまブランドینگプロジェクト」の一環。矢島の知名度アップや地域経済の活性化を図る目的で、2015年度から地元食材などを活用した商品の開発、販売を行っている。

今年はコロナの影響で販売活動は断念。それでも、少しでも矢島を元気にしたいとの思いから、住民の困り事の解決に向けて活動することにした。生徒がアンケート調査をした結果、コロナ下で子育て世代が自宅で子どもをどう遊ばせるか困っているとか「よしまブランド」を作ることになった。

制作は8月下旬から着手。美術部員が中心となり色鉛筆やパソコンのソフトで絵を描き、今日23日に完成した。

塗り絵はA4判で26ページ。塗り絵を通して矢島について知ってもらおうと、「矢島八朔まつり」の様子や矢島駅など、名所や文化を題材にした絵を多く掲載した。

絵本のストーリーは、かつて島海山にすんでいた悪鬼「手長足長」を僧が退治したという言い伝えをベースにした。縦15ページ、横20ページで13ページ。色鉛筆の素朴な絵が温かみをもたらしている。

ん18は「みんなで協力して作ったものが形になりうれしきになるきっかけになればいい。小さい子でも好感が持てるような絵柄を心がけた。家族で一緒に楽しみ、矢島を好む」と話した。

（佐藤優将）